

大阪府河内長野市 「地域連携サポートプラン」

提 案 書



平成29年5月

国土交通省

近畿運輸局

近畿運輸局大阪運輸支局

# 大阪府河内長野市の概要、公共交通に関する主な取組

## 市の概要

- 大阪府の南東端に位置し、大阪都心まで約30分、関西国際空港には約1時間でアクセス。泉州、和歌山、奈良方面への結節点として交通至便の地でありながら、金剛山や岩湧山などの山並みに囲まれ、森林が市域の約7割を占める。市内に居ながら満喫できる大自然や、水源地としてのきれいな水と澄んだ空気が最大の魅力である。
- 昨年度からは、恵まれた自然や歴史・文化などの地域資源を活かし、新たな価値を創造するまち「スマートシティ」をキーワードに定住人口の維持や交流人口の増加に力を入れ、「選ばれる」まちづくりを進めている。
- 総人口はH12をピークに年々減少している。また、一方で**大阪府下の市の中でトップの高齢化率**（約31.3% ※H27国勢調査）となっており、急速に高齢化が進んでいる。



河内長野市  
シンボルキャラクター  
「モックル」

人口：108千人  
面積：110km<sup>2</sup>



## 公共交通に関する取組み

### ◆基本方針・計画・体制等

H20	基本方針：河内長野市公共交通のあり方 策定	H24	第2期河内長野市地域公共交通総合連携計画 策定（3年）
H21	河内長野市地域公共交通会議 設置 河内長野市地域公共交通総合連携計画 策定（3年）	H27	<u>河内長野市地域公共交通網形成計画 策定（3年）</u>

### ◆主な取組み

H7	日野・滝畑コミュニティバス運行（日野・滝畑地区の移動手段確保）
H14	モックルコミュニティバス運行（公共施設・医療機関等へのアクセス向上）
H22	モックルコミュニティバスにて上限200円運賃を試行運行（現在も継続実施）
H23	楠ヶ丘地域乗合タクシー（くすまる）運行、フリー乗降制度の導入（荘園町）
H25	路線バス千代田線にて上限200円運賃を試行運行（コミバスとの運賃競合回避）
	モックルコミュニティバスにて日曜日限定で同伴者割引を実施
H26	フリー乗降制度の導入（南青葉台）
	交通不便地域との勉強会を開催（現在も継続実施）



モックルコミュニティバス



くすまる（5周年記念ver.）

## 公共交通の現状

- 市内公共交通網は、鉄道の主要駅から各団地間を結ぶ南海バスの路線網が放射状に整備されている。
- コミバスは、市内の公共施設等にアクセスする「モックルコミュニティバス」と、河内長野駅と南西部の山間地（日野・滝畑地区）を結ぶ「日野・滝畑コミュニティバス」の2路線が運行している。
- 公共交通不便地域（駅から400m、バス停から400m以上離れた地域）の楠ヶ丘地域では、同地域と三日市町駅を結ぶ「楠ヶ丘地域乗合タクシー（くすまる）」が運行している。「くすまる」は地域主体による様々な利用促進により高い利用率を維持するなど、模範的事例として他自治体等からも注目される取組みである。
- モックルコミュニティバス及び日野・滝畑コミュニティバスの利用者数は、昨今の積極的な利用促進により短期的には増減を繰り返しているものの長期的には減少傾向にあり、一方で市の財政負担は増加傾向にある。
- 網形成計画の目標である公共交通不便地域の解消に向け、市内11自治会を対象に「地域の公共交通を考える勉強会」の開催を働きかけ、希望する2自治会と勉強会を継続的に実施している。また、先行事例である「くすまる」の試乗会や意見交換会を実施し、住民の意識醸成を図っている。
- 現時点で地域の足の確保が喫緊の課題と認識されていない地域について、市としては将来を見据えて今から意識醸成を図っていきたい意向である。
- 平成27年度策定の現計画は平成29年度が計画期間の最終年度のため、**次期計画策定に向けた検証、検討が必要**である。

### ◆コミバス利用者数

(人)	26年度	27年度	28年度
モックルバス	58,326	55,733	58,504
日野・滝畑バス	78,002	82,336	81,387
くすまる	31,158	30,758	31,390



## 課題

- モビリティ・マネジメントや観光施策と連携した事業の展開
- 高齢者に配慮した交通サービスの充実

**鉄道** : 南海高野線 (6駅)、近鉄長野線 (2駅)

**民間バス路線** : 南海バス (21路線)

**コミュニティバス (南海バスに運行委託)** :

モックルコミュニティバス (1路線)

日野・滝畑コミュニティバス (1路線)

**タクシー** : 大阪第一交通、近鉄タクシー

**乗合タクシー (大阪第一交通に運行委託)** :

楠ヶ丘地域乗合タクシー「くすまる」 (1路線)

## モビリティ・マネジメントや観光施策と連携した事業の展開

### ○新たな連携プロジェクトの検討

- ・ 現計画の検証を踏まえた連携可能な事業のマッチングや、「公共交通庁内検討会議」（交通、観光、福祉の部局により構成）における提案の結合により、相乗効果を図ることが重要である。
- ・ 例えば、沿線施設との連携による企画乗車券と、これをPRするためのチラシ等について、バスの乗り方教室において活用するなど、利用促進のためのツールとイベントを組み合わせ、モビリティ・マネジメントとして展開することが効果的である。また、観光ナビゲーションアプリ「河内長野さんぽ」については、公共交通を利用した観光客を呼び込むべく、鉄道も含む交通アクセス情報を充実させることが有効である。



河内長野さんぽ

### ○コミュニティバスの利用促進

- ・ 「モックルコミュニティバス」については、休日に観光地を巡る新たなルート設定が検討されているが、交通・観光両面から総合的に情報提供を行うことが必要である。
- ・ 「日野・滝畑コミュニティバス」については、来訪者の誘客やリピーターの獲得等を目的として観光ボランティア同乗による観光案内が検討されているが、観光ボランティアに利用者の意見などを聞き取ってもらうことで、現場の声をフィードバックし、課題の抽出、改善につなげることが重要である。

### ○総合的な情報提供

- ・ 鉄道駅構内におけるバス情報の提供や、路線検索サイトへの市内バス情報の組み込み（本年3月に国土交通省が発表した「標準的なバス情報フォーマット」の活用）など、来訪時における総合的な情報提供を図ることが必要である。
- ・ また、今後は、時刻表や路線図の多言語表記や企画乗車券の発行等により、訪日外国人旅行者の誘客に取り組むことも利用促進にとって重要である。
- ・ なお、観光案内、地域情報提供の充実等については「訪日外国人旅行者受入環境整備緊急対策事業費補助金」等の活用も可能である。

## 高齢者に配慮した交通サービスの充実 (知ってもらう、使ってもらう、考えてもらうために関係者が連携)

### ○高齢者に対する情報提供の充実「知ってもらう」

- ・ 運転免許の返納者に対するバスマップ・時刻表の配布など、高齢者に対して公共交通に係る情報を分かりやすく提供することが必要である。

### ○高齢者の外出支援としての利便性向上「使ってもらう」

- ・ 情報提供の拡充にあわせて、高齢者にもっと公共交通を使ってもらうためのサービスのあり方を事業者と連携して検討することが重要である。
- ・ 例えば、モックルコミュニティバスにおける同伴者割引の日曜日以外への拡大については、高齢者の外出機会を増加させる目的として検討することも一つの方策である。

### ○公共交通不便地域への対応「考えてもらう」

- ・ 住民主導による地域コミュニティ交通として注目されている「くすまる」は、高齢者の移動手段としても重要な役割を果たしており、自治会による高齢者向け利用回数券の配布 など高齢者の利用促進の観点からも画期的な取組みが展開されている。
- ・ 現在、住民の意識醸成に向けた勉強会を実施している地域に対しては、「くすまる」のような他地域の成功事例をもとに、導入の手順や地域に及ぼす効果、住民・事業者・行政が果たすべき役割を分かりやすく明示しながら、将来を見据えた検討を継続していくことが必要である。
- ・ 特に「くすまる」の取組みにより得られた知見として、数値目標を通じた関係者の連携により地域コミュニティの一体化、活性化につながっているという点を地域住民と共有することが重要である。



～乗って 出掛けて わがまち元気に!～

# 協定締結から提案に至るまでの間の動き・成果(大阪府河内長野市)

- ①平成28年 6月 地域連携サポートプランの協定を締結
  - ②平成28年10月 南海バスが専用ICカード「なっち」を導入
  - ③平成28年10月 市が「公共交通庁内検討会議」による施策提案をとりまとめ、市交通会議へ提示し関係者間で議論
  - ④平成28年11月 市・南海バスがバスの乗り方教室及びバスに関するクイズ大会を実施
  - ⑤平成29年 3月 市がバス沿線施設での割引特典付の企画乗車券PRチラシ・ポスターを作成し、公共施設、観光、商業施設等で配布し、市内路線バスの利用促進を実施
  - ⑥平成29年 4月 南海バスがバスロケーションシステムを導入
  - ⑦平成29年 5月 近畿運輸局が市・南海バス・大阪第一交通と連携し、バスの車内事故防止教室として紙芝居、バス・タクシー車両展示等を実施
  - ⑧平成29年 6月 市が次期計画策定に向けた地域公共交通会議を開催（予定）
- ※その他、市は平成26年度から公共交通不便地域解消に向けた勉強会を継続的に実施



出典：南海バスホームページ



自治会が作成したのほり旗



企画乗車券PRチラシ・ポスター



バスの乗り方教室



地域の防犯活動にも一助